



第379号

公益社団法人
徳島県環境技術センター

発行

徳島市津田海岸町2-33
電話 (088) 636-1234(代)
発行責任者 松原 義輔
編集者 原岡 艶甲

第25回浄化槽大会を挙行政 井内副会長に環境大臣表彰

浄化槽の日の関連行事である、第25回全国浄化槽大会が9月30日、東京都千代田区の東京會館で開催された。大会には全国から、行政、地方議員、関係団体・業界関係者などのべ800名が参加した。

式典には、来賓として、環境省の廃棄物リサイクル対策部長、国土交通省からは住宅局建設指導課長が出席し、大臣の祝辞を述べた。

続いて、浄化槽関連功労者の表彰が行われ、環境大臣表彰24名、国土交通省土地・建設産業局長表彰6名、同住宅局長表彰3名、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長表彰27名に表彰状が授与された。当センター関係では、井内副会長に環境大臣表彰が、また大坂常任理事に環境省リサイクル対策部長表彰が授与された。



懇親会で祝辞を述べられる
細野環境大臣

引き続き、浄化槽の日の標語の表彰が行われた。式典終了後は、『浄化槽システム:これを支えるより良い「しくみ」とは?』と題して、一般社団法人管路診断コンサルタント協会会長村岡基氏の記念講演が行われた。

尚、本年度の標語入選作品は次のとおり (敬称略)

最優秀賞	浄化槽 水の輪	人の輪	地球の輪	福岡県 山本真由美
優秀賞	復興の	主役を担う	浄化槽	徳島県 原岡 艶甲
	浄化槽	人と自然を	つないでる	福岡県 山本 直隆
(学生の部)	浄化槽で	水環境	アップ宣言	岡山県 中谷 聡宏

公益社団法人 第1回目の総会開催

県環境技術センターは、9月16日(金)午後1時30分より、公益社団法人へ移行した初めての総会を開催した。総会には会員107名(議決権行使書・委任状を含む)が出席した。



最初に山田副会長が開会挨拶をしたあと、松原会長が式辞を述べ、お忙しい中、ご出席いただいたご来賓の方々からご祝辞をいただいた。

まず、飯泉徳島県知事の代理として出席された、滝壽郎県民環境部副部長、続いて、原徳島市長、長尾哲見県議会議員、北島勝也県議会議員から、ご挨拶をいただき、その後、出席いただいているご来賓の方々を紹介。祝電披露のあと、議事に入った。

第1号議案平成23年度事業報告について、第2号議案平成23年度収支決算書類の承認についての両議案とも、会長が議場にその賛否を諮った結果、満場異議なく承認され、議案が可決した。

議案がすべて議決されたため、午後3時、総会を閉会した。

設備士試験で321名が合格 合格率は39.3%

(財)日本環境整備教育センターは、23年度浄化槽設備士試験の結果を発表した。

23年度の受験者数は887名で(昨年度1,152名)、昨年度より265名減少した。受験者数が大きく減少した理由としては、設備士試験の官報公布日(受験申請書配布開始も同日)が東日本大地震の3月11日だったことが影響していると思われる。なお、合格者は321名(同305名)で合格率については39.3%(同26.5%)と、昨年度比12.8%増と大きく上回っている。

試験会場別の合格者は次のとおり

宮城県	合格者数	31名	(合格率 37.8%)
東京都	同	85名	(同 39.4%)
愛知県	同	44名	(同 34.1%)
大阪府	同	82名	(同 52.2%)
福岡県	同	79名	(同 34.1%)
計	同	321名	(同 39.3%)

ポスターコンクール 平成23年度 入賞作品決定

最優秀2点・優秀作品7点他

9月21日(水)午後3時より県庁202号会議室において、「平成23年度浄化槽の日のポスターコンクール」の審査が行われた。

今年は、例年より応募数が少なかったが、それでも、県下の小学校から77点、中学校から29点、高等学校から2点、計108点の応募があった。

審査会には、徳島県ゴミゼロ推進室の川端室長・天野専門幹・脇田係長・富永係長が、県環境技術センターからは原岡局長他3名、県教育委員会から井上史朗先生が出席、応募作品1点1点を審査し、次のとおり入賞者が決まった。なお、最優秀賞及び優秀賞を受賞された皆さんには、10月18日に、表彰状・記念品・記念の盾が飯泉知事から贈られる。

受賞された方は次のとおり

<小学校の部>

- 最優秀賞 辻 真紀子さん 川田小学校5年
- 優秀賞 黒川明日香さん 山瀬小学校2年
- 〃 中山 洋佑君 清水小学校2年
- 〃 篠本 賢伸君 中野島小学校1年
- 佳作 伊庭 誠人君 山瀬小1年 他9名

<中学校の部>

- 最優秀賞 林 春奈さん 阿波中学校1年
- 優秀賞 山ノ井咲希さん 阿南第1中学校3年
- 〃 田處 祥太君 阿波中学校1年
- 〃 森岡 由凧さん 井川中学校1年
- 佳作 伊西 真由さん 阿波中学校2年 他8名

<高等学校の部>

- 優秀賞 野田 猛君 名西高校1年
- 佳作 栗田みのりさん 城ノ内高校1年

最優秀作品



最優秀賞 小学生の部
辻 真紀子



最優秀賞 中学生の部
林 春奈

優秀作品は下記日程で展示されます。

西部総合県民局美馬庁舎	10月24日～10月28日
南部総合県民局阿南庁舎	10月31日～11月4日
徳島合同庁舎東部県税局 徳島庁舎	11月7日～11月11日

汚水処理人口普及率

86.9%に 全国ワースト1

徳島県は49.4%で

環境省・国土交通省・農林水産省の3省は、9月1日に、平成22年度末現在の、汚水処理人口普及率を発表した。

今回の調査には、東日本大地震の影響の大きかった、岩手・宮城・福島は含まれていない。

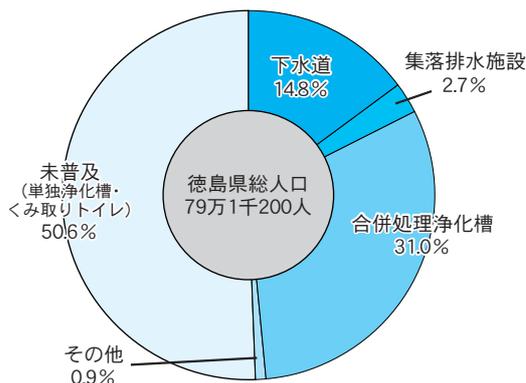
この3県を除いた全国の汚水処理人口普及率は86.9%で前年度比0.8%増となった。

徳島県は、昨年に引き続き全国ワースト1で、49.4%（前年度比1.8%増）であった。

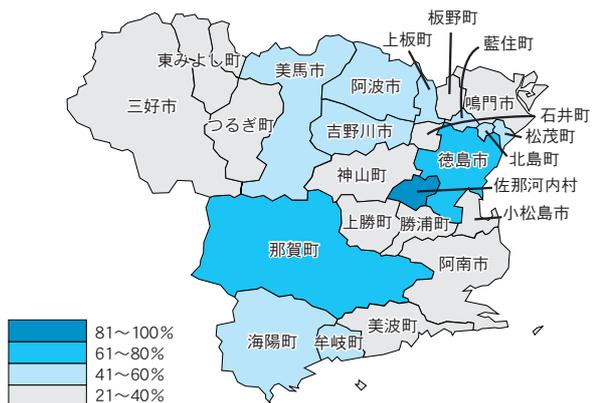
県内の市町村別の状況で、汚水処理率が一番高かったのは、佐那河内村で91.1%。続いて徳島市67.4%、那賀町64.1%、松茂町58.9%、吉野川市58.7%の順であった。

また、逆に最も汚水処理率が低かったのは、小松島市で26.1%。続いて上勝町28.5%、美波町31.7%、鳴門市32.2%、神山町33.8%の順であった。

◆徳島県全体 49.4% 平成22年度末現在



◆市町村別普及率 平成22年度末現在



知ろう、学ぼう、浄化槽

阿南市橘小学校で
環境学習実施



県環境技術センターは、9月28日(水)「知ろう、学ぼう、浄化槽」というテーマで、浄化槽の仕組みと働きについて、阿南市立橘小学校の5年生27名を対象に環境学習を開催した。

この講座は、センターがオブザーバーとして参加している「みなみから届ける環づくり会議」から依頼があり実施したもので、センター職員が講師を務めた。

授業は浄化槽模型を使用して、立体紙芝居風に行ったため、児童たちは非常に興味を示し、熱心に説明に聞き入った。

この浄化槽模型は、センター職員が予め学校の浄化槽を調査し、設置されているのと同じ構造のもの（合併分離接触ばっ気方式）を廃材を利用して手作りで製作し持参したもので、非常に好評であった。

続いて、現地実習として実際に学校に設置されている浄化槽を見学、その仕組みと、浄化槽でどれだけ水がキレイになるかをCODパックテストや透視度を測定して勉強した。

授業の終わりにアンケートを実施したが、「浄化槽のしくみが分かって面白かった」、「浄化槽が魔法の箱で無いことがわかった」等、浄化槽に好感を示す回答が大半を占め、学習会実施の目的が達成出来た実り多いものになった。

浄化槽模型で
浄化槽のしく
みを説明



浄化槽を見学

透視度を測定



高知市で 検査員研修会を開催

四国4検査機関から63名が参加

浄化槽法指定検査機関四国地区協議会の「平成23年度検査員研修会及び水質担当者研修会」が、9月21日～22日の2日間、高知サンライズホテルで開催された。



研修会には四国4県の検査機関などから63名が出席した。

開会にあたり、主催検査機関の一般財団法人高知県環境検査センター本田理事長が挨拶した後、2日間の研修が行われた。

1日目は、4県から下記5題についての研究が発表された。

続いて、管理職・検査員・水質検査担当の3分科会に分かれ、各県の実態や課題が話し合われた。

2日目は、(財)日本環境整備教育センター 講習事業グループリーダーの久川和彦氏により、「法定検査のあり方について」講演が行われた。

尚、予定していた、(株)ハウステックによる研修は台風の影響のため、中止された。

各県から発表された研究課題は次のとおり（敬称略）

- ①浄化槽電子台帳作成への取り組みについて
（公社）愛媛県浄化槽協会 板東 篤
- ②自動BOD測定システム導入による効率化について
（公社）徳島県環境技術センター 折野和嘉子
- ③BOD検査における経費削減について
（公社）香川県浄化槽協会 浜田 真輔
- ④使用状況から見た処理水質について
（公社）愛媛県浄化槽協会 小濱 豊崇
- ⑤小型浄化槽における微生物についての調査
（一財）高知県環境検査センター 田村 美幸



管理職分科会



県環境技術センターは、9月7日、午後5時より、ボランティア活動の一環として実施している、パークアドプト事業を行った。

アドプト・プログラムとは、市民と行政が協同で進めるまち美化プログラムのことで、企業や地域住民などが道路や公園など一定の公共の場所の里親となり、定期的・継続的に清掃活動を行い、行政がこれを支援する仕組み。

道路や公園などの管理者とアドプト団体が、対象となる区間や場所、清掃する回数、団体が行う作業、管理者の役割、期間などについて合意をし契約を行う。それにより、清掃活動する側には責任が生じ、対象となる場所にはアドプトされていることを示す看板が立てられる。

センターは、徳島市が管理する津田海岸町の公園の清掃を2ヶ月に1回の頻度で、除草や清掃を実施し、地域の美しい憩いの場を確保する。

初回は、環境技術センター内勤職員20名が参加、公園に生い茂った草を刈り、捨てられていたクーラーボックスやゴミなどを拾い、公園は見違えるようにキレイになった。



♪ 講習会開催のお知らせ ♪

◆浄化槽設備士技術講習会

日時：平成23年11月16日(水) 13：30～
場所：徳島グランヴィリオホテル1F

◆浄化槽メーカー講習会

日時：平成23年11月26日(土)
午前の部 10：30～ 午後の部 13：00～
場所：県環境技術センター4階会議室

水質計量便り

街を歩けば、あちこちで、キンモクセイの香りがします。秋だなあ…(=^・^=)。

さて10月31日はハロウィンですね。そうです。子供たちが魔女などのお化けの仮装をして、ジャック・オー・ランタンと呼ばれるオレンジ色のかぼちゃの中身をくり抜いた物に目や鼻などをつけ、ろうそくを灯し、「Trick or treat」と言いながらお菓子をもらうお祭りです(#. #)。

最近では、日本でも色々なお店で、魔女やかぼちゃのお化けなどの装飾品やお菓子などが見かけられ、ハロウィンも一般に浸透してきた気がします。

もともとは、キリスト教の諸聖人の日(万聖節)の前晩(10月31日)に行われる民俗行事で、その起源は紀元前までさかのぼり古代ケルト民族たちの秋の収穫祭だったそうです。

ケルト民族の1年の終わりが10月31日で、この夜は霊や精霊、魔女たちが現れると信じられていた為、身を守るために始めたのがルーツと言われています。

古代ケルト民族は、自然の中に様々な神々を信仰し、また恐れていました。収穫祭においてはそのような思いから、豊かな自然に感謝し、一年の豊穡を祝ったのでしょね。

日本でも秋の豊穡を祝う祭りは各地で見られますよね。

ハロウィンは派手な飾りつけで、街を彩る祭りですが、実は豊かな自然を大切に思う心が脈々と受け継がれているのですね。

古代の人たちも感謝したこの大切な自然を守っていききたいものです(´ ˘ `)。

by koizumi



事務局だより

法定検査のお知らせ

次の日程で法定検査を実施します。

○11条検査(通常移行)

日程1：平成23年11月21日～11月25日
地区：鳴門市

11条検査(一斉検査)

日程2：平成23年11月28日～12月2日
地区：三好市(池田町・三野町地区)

11条検査(督促検査)

日程：平成23年11月28日～12月2日
地区：三好市・東みよし町

11条検査(通常移行)

日程：平成23年12月5日～12月12日
地区：阿波市・吉野川市・美馬市・つるぎ町

